

会員名簿について 本号に附した“日本昆虫学会会員名簿”を見られて、誤りを発見されたならば、直に本部幹事まで御連絡願いたい。本名簿を作製後に佐所を変更された会員もあることであろうし、住所名が変つていながら本部に御連絡を忘れておられる方もあろう。それに姓名のローマ字綴りにも不備があるのではないかと思う。編集幹事に本部から送られてきた名簿原稿を見て特にこれらの点を痛感した。編集幹事等で気のついた方々のは改正して印刷に附したが、出来るだけ完全なものにせねばならないので会員皆様の御援助を願いたい（安松京三）。

“昆虫”投稿について御願ひ 次記の諸項目について、特に今後投稿者の御協力を御願ひしたい。

1. 別刷入用部数は必ず原稿第1頁論文標題の上に朱書されたい。若し御記入ない場合には別刷の必要ないものと認める。
2. 欧文はタイプライトされたい。
3. 短報原稿が和文の場合には、その標題の欧文訳を、欧文の場合にはその標題の和文訳をつけられたい。共著の欧文論文の場合、その共著者が本会会員でない場合には、その姓名を原稿用紙の欄外に日本文字で明示されたい。これらは総目次を作製する場合に必要なである（安松京三）。

編集後記 既報のように、昆虫, vol. 25, no. 4は日本昆虫学会40周年記念号として編集した。編集に直接御協力下さった磐瀬太郎・長谷川仁両幹事に心から御礼を申上げる。

名誉会員の5名の先生及び創立当時から古い会員であられる丹羽四郎・岡崎常太郎両先生にはそれぞれ貴重な興味深い文を執筆して戴き記念号を飾つて下さった。そして若い世代の私等の知らなかつた古い事実の数々を書留めて下さったことは有難い次第である。

会長江崎先生には、大病後の静養を必要とされる時期にも拘らず、本会の為に“日本の現代昆虫学略史”を御執筆願つた。会員皆様の御承知のように、昆虫学史は昆虫学の中でも会長の最も造詣深い分野の一つで、永年に亘つて蒐集された莫大なしかも正確な資料を基としてその蘊蓄を傾けられたもので、絶対に他の追隨を許さぬ労作である。ただ“略史”を執筆願うに当つて、会長に提供し得た頁数が不十分であつたことは、本会の経済上からやむを得ないこととはいえ、まことに申訳ない気がする。あの山なす資料の中から、この“日本の現代昆虫学略史”をまとめられるのには随分と苦勞をされたことであろう。会員皆様と共に深く感謝の意を表すると同時に、近い将来に於て略史でない“日本昆虫学史”を公にして下さるように御願ひしたいものである。“年譜と一覽”は磐瀬幹事及び江崎会長の合作であるが、これ又極めて便利なもので、特に40周年記念号には不可欠の年表である。

現在編集幹事の手許には、“昆虫”誌の2号分原稿が集つている。会員の寄せられた論文原稿を早く“昆虫”誌に消化する一つの方法は、会員数を増加することである。会員の増加に御協力を御願ひしたい。

“昆虫”の埋草用の短報がいつも不足である。振つて短報も寄せられたい（安松京三）。